



個性を認め合う

校長 田中 秋人

新緑の季節を迎えました。桜の木も葉を茂らせています。正門の横の花壇には、地域の方々に植えていただいたチューリップが咲いています。背丈が伸びたチューリップ、今から咲こうとしているチューリップ。これから大きく育つチューリップもあることでしょう。背丈も色もそれぞれですが、どのチューリップも毎朝子どもだけでなく、職員を元気づけてくれています。



さて、4月から6月にかけて、新年度の健康診断が保健室で行われています。身長や体重の測定に始まり、歯科、内科、耳鼻科などと続いていきます。順番をしっかりと守り、静かに待っている姿が多くみられました。本校の保健室は、校長室や職員室にも近く、検診が終わった子どもたちと接する機会が多くあります。子どもたちと接していると「去年より、身長が〇cm伸びた!」や「視力が変わってなくてよかった」などの声が聞こえてきました。その一方で「あまり身長が伸びなかった。」という声も聞こえてきました。子どもそれぞれ自分の成長や健康に関して興味関心があるようでした。



当たり前のことですが、成長には個人差があります。小学校時代に成長する子、中学校になってから大きく成長する子もいます。成長は身体だけでなく、友達を大切にしたいという心の成長や、勉強をしたいという学習に対する成長などもあります。これらすべての成長が誰でも一様に同じように成長することはありません。勉強が得意な子、運動が得意な子、本を読むことが得意な子、友達に大丈夫と声をかけられる子… 様々な良いところをもった子どもがいます。その大切な個性をお互いの良さとして認め合

いながら学校生活を過ごしていくことで、友達をはじめとする周囲の人々を大切にする心が子どもの中で育っていきます。これらの気持ちは、子どもだけでなく私たち大人も意識し、周囲の人々の個性を認めていくことが今の時代に求められていると強く感じています。

本校の学校教育目標の一つに『多様性を認め、尊重し、自他ともに大切にする子を育てます。』とあります。子どもは一人ひとり違います。成長の過程も、もちろんそれぞれ違います。そのような違いの中でも、それぞれの良さや個性を認め合い自分や友達を大切にできる子どもたちを育てていきます。学習場面、給食当番、清掃活動、学級での係、なかマイ活動… 子どもが輝くたくさんの場面をつくり、そこで輝く様子をみとり、一人ひとりに寄り添い、成長に合わせた支援をしていきます。花を育てていただいた温かな地域の方々、子どもを思う保護者の気持ち、どれも本校にとって欠くことのできない豊かな力です。どうぞ今月もご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。